

こすもスマイル 81号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和8年9月

～副病院長のあいさつ～



皆様には日頃から地域連携にご協力いただき、ありがとうございます。

7月28日、熊本県熊本地方を震源とし、10年前に引き続き、マグニチュード7.1という甚大な地震に襲われました。わが小林市立病院からいち早くDMAT（災害派遣医療チーム）が被災地に駆けつけ、災害援助活動を行っています。当院は災害拠点病院でもあり、このような災害援助活動が、西諸地区で災害が発生した際の経験や知識として活かされるものと思います。被災された方々のみならず、この厳しい猛暑の中、種々の作業にあたっておられる援助チームやボランティアの皆様の身の安全と健康を祈らずにはおられません。

小林市立病院では、毎年約600件ほどの手術が行われています。私は、そのための麻酔を担当しています。手術を受けられる患者さんは、多くの方が高齢であり、また、いろいろな治療中の疾患を持っておられます。

患者さんに適切な手術がなされ、手術および疾病から順調に回復するためには、手術前の身体の状態の評価と、さらに手術によって身体の状態も大きく変化しますので、周術期の適切な診断と治療が大切です。麻酔に当たっては、服用されているお薬の麻酔への影響や、麻酔による身体への影響、血圧、糖尿病、心臓病などの持病への影響についての配慮が必要となります。手術後の疼痛の軽減や手術による身体各臓器への影響を最小限にすることで、速やかな回復を支えることができると信じています。

入院してから手術や治療、そして退院にいたるまでには、術後の痛みを軽減するための疼痛管理、手術の傷のなおりや臓器機能の回復のための栄養の管理、身体機能や運動能力の回復維持のためのリハビリテーションが欠かせません。私は患者さんの早期の回復を助けるために、手術中の麻酔管理だけでなく、各科の医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士などのスタッフと協力し合っています。

術前、術中、術後の管理にたずさわることで、地域医療の推進に協力したいと思っています。これからも、ご協力とご指導をよろしくお願いします。

小林市立病院 副病院長 麻酔科科長兼任 窪田 悦二

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



整形外科紹介



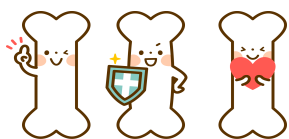
今回も、整形外科で取り組んでいる『FLS』について紹介します。

『FLS』とは骨折リエゾンサービス（Fracture Liaison Service）の略で、二次骨折（一度骨折した人が再び骨折すること）を防ぐ取り組みです。具体的には、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、放射線技師、栄養士、医療相談員など多職種が連携し、骨粗鬆症の治療開始、継続をサポートし、転倒予防の実践を通じて二次骨折を防ぎます。

骨粗鬆症を未治療のまましていると、骨がもろくなり骨折しやすい状態になります。骨折は死亡率に影響を及ぼすことが知られています。1年後で約20～30%、5年後には60%～70%の死亡率です。癌の死亡率とほとんど変わりありません。また、寝たきりなどにつながり介護度をあげる要因、認知症のリスクが高くなると言われています。介護する家族への負担も大きくなります。

当院ではFLSチームを結成し、大腿骨近位部骨折患者を対象に早期手術を行い、骨粗鬆症の治療を開始し指導を行っています。多職種のスタッフが介入し、治療の継続、転倒予防のリハビリ、生活環境の整備等を通じ退院後の再骨折リスクを防ぐ事を目標に活動をしています。

当院には骨粗鬆症マネージャーがおり、今年度新たに2名が資格を取りました。骨粗鬆症が気になる方は整形外科外来までお気軽にお問い合わせ下さい。



FLS チーム：整形外科科長 上通 一師

骨粗鬆症マネージャー 鵜戸 天恵、春松 彩加、出水 里奈

5 階病棟紹介

消化器外科病棟

看護師の一日

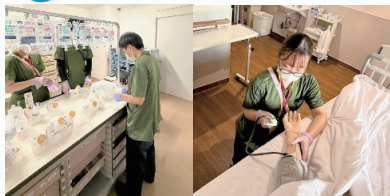
患者さんの安心と笑顔のために、
看護師はさまざまな場面で支えています。

🕒 8:50 情報共有



患者さんの状態や注意点を、
看護師や多職種で共有します。

🕒 10:00 点滴・患者の状態確認



点滴の準備を行います。
血圧を測り、体調や痛みなどを
確認します。

🕒 13:30 カンファレンス



医師や多職種と話し合い、
より良い治療・看護を考えます。

🕒 14:00 処置・検査介助



処置や検査の
介助を行い、
安全に受けられる
よう支えます。

🕒 16:30 申し送り



夜勤スタッフへ、
患者さんの状態や
ケア内容を
引き継ぎます。

患者さんに安心して入院生活を送っていただけるよう、
看護師は24時間チームで支えています。

5 階病棟副看護師長 餅原 悦子

事務部紹介

小林市立病院は、西諸医療圏で唯一の地域医療支援病院、災害拠点病院です。
今回は、小林市立病院の役割についてご紹介します。



病院機能	役割
地域医療支援病院 県内9施設	かかりつけ医からの紹介患者さんへの専門的な医療の提供、救急患者を受け入れるための体制整備、医療機器等の共同利用など、地域全体の医療を支える医療機関のことです。
災害拠点病院 県内 12 施設(うち 9 施設は沿岸部に立地)	災害発生時に緊急対応し、被災地域内の傷病者受入や搬出を行う体制が整っており、災害派遣医療チーム(DMAT)を保有し、被災地への派遣や医療チームの受入を行います。

※令和8年熊本地震では震災当日に DMAT 隊の派遣を行い、医療支援を行っています。

その他に、第二種感染症指定医療機関でもありますので、コロナ禍でも、西諸で唯一、入院治療のできる医療機関でした。

地域の医療機関では、それぞれが提供できる医療の役割分担を行いながら、診療を行っています。皆様には心も体も元気でいられるように、かかりつけ医を持って適正な受診を心がけ、また、積極的に健康診断を受けて、健康寿命日本一！を目指しましょう。

事務部部长 松田 和弘

価格改訂のお知らせ！

令和8年9月1日から、特別室料と各種書類発行手数料を改定します。近年の物価高騰等に伴う維持管理費の増大に直面する中、今後も安全で質の高い医療体制と住民サービスの維持・向上を図るための見直しとなります。ご理解・ご協力をお願いします。

■ 1. 特別室料の改定（料金はいずれも税別）

部屋のタイプ	改定前	改定後
特別室 A	5,000円	6,000円
特別室 B	3,000円	4,000円

■ 2. 各種発行手数料の改定（料金はいずれも税別）

書類の種類	改定前	改定後
普通診断書	1,200円	2,500円
健康診断書	1,200円	2,500円
死亡診断書	1,600円	4,000円
死体（胎）検案書	3,200円	4,000円
司法関係診断書	3,200円	5,000円
出産・死産証明書	1,200円	2,500円
その他の証明書（簡易なもの）	600円	1,500円
その他の証明書（複雑なもの）	1,200円	2,500円
医学証明書	1,200円	2,500円

乳腺外科を標榜しました！

乳腺外科常勤医師の着任に伴い乳腺外科の診療を開始しました。乳腺外科では、標準治療に基づいた診療を行いながら、多くの選択肢の中から患者さんにとってベストな治療を安心して受けていただけるように心がけています。

特にご高齢の方をはじめ遠方の施設に通うのが難しい方など、可能な限り当院で治療ができるよう努めます。

【診療体制について】

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来	外来	休診	外来
午後	手術	外来	検査	休診	外来

※診療は予約制です。

診療のご相談や予約は、地域医療連携室（0984-23-8225）へご連絡ください。

【乳腺外科医師】

常勤 乳腺外科科長 坂元 晴子（さかもと はるこ）

西諸華道連盟の皆様、
素敵なお花をありがとうございます。



スタッフのひとこと

朝夕の涼しい風により秋の気配を感じる9月となりました。今年の夏も厳しい暑さや天候の変化がありましたが、何より心に留まるのは前回の地震から10年経った7月に再び起きた熊本地震と被災された方々への思いです。今なお続く復興への道のりに思いを馳せ被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。「人ごとではない自分ごと」として、いつ起きるか分からない自然災害への備えを改めて意識させられました。被災地の早急な復興を祈ります。

地域医療連携室 入退院調整看護師 岩田 マリ子

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp